

先師孔子廟

馬場春吉

山東の地は言ふまでもなく孔孟桑梓の地であり、且つ太公望呂尙の如き武將の采地であり、後世この地から聖賢偉人と云ふべきもの數多く現はれ、恰も天上の星の如く歴史の上に輝いて居ります。闕里を中心として起つた。禮樂、稷下に集つた諸子百家、齊燕の間に風の如く彷徨した幾多の神仙方士、目まぐるしい迄に展開して來た山東文明發達の遺蹟を、特別の技能と危険を恐れざる勇氣とを以て、其計畫を山東の奥地に進め、如實に之を寫眞の上に現はし來つたことは、確に貴社のわが學術界への貢獻であると信じます。

曲阜は數多き山東史蹟のうち、最も光彩ある地であつて省城濟南から津浦線によつて南下すること約八十七哩、姚村と云ふ一寒驛から平野の間を十八支里ほど東南に進んだところにあります。戸數約八百、人口五千ほどの一縣城で、附近別に特産物を有せず、經濟的市場として見る時は、蕭條たる一小都に過ぎないのでありますが、然し此地は周公の子伯禽の開いた魯の都であつて、魯は周公の薨すると共に、世々祀るに天子の禮樂を以てするを許された國であります。魯は周公より三十四世頃公に至り戰國楚の考烈王の爲めに滅ぼされましたが、其子孫は東野氏と稱し、現在なほ周公の祖廟を守り、曲阜の地に榮えつてあります。又春秋の世に亞細亞の最大なる偉人として孔子聖人がこの地に出で彼の道德彼の哲學は、東亞民族の上に驚く可き感化を與へ、其生地たる曲阜は恰も回教國に於けるメツカ、クリスト教徒に於けるエルサレムの如き聖地として尊まれ、禮樂の中心、儒教文化發源の祥地として、歴代帝王幸魯釋典の大禮があり、戰國兵馬倥偬の間にもなほ弦誦の聲を絶たず、易姓革命の國にあつて孔聖の子孫が今日なほ中國に於ける最も令名あるファミリーとして廟廷を守りつゝあることは、一偉采と言はねばなりません。

太史公曰く「詩に之れ有り、高山をば仰ぎ、景行には行くと、至ること能はずと離も然も心は之に郷往す。余れ孔子の書を読み、其人と爲りを想見す。魯に適き、仲尼の廟堂車服禮器と諸生が時を以て禮を其家に習ふとを觀る。余れ祇回して之に留まり去ること能はざりき。天下の君王より賢人に至るまで衆けれども、當時は則ち榮え、没すれば則ち已む、孔子は布衣にして十餘世に傳へ學者之を宗とす」と、太史公をして祇回去る能はざらしめた仲尼の廟堂こそ即ち今日孔子廟の地であります。曲阜の史蹟には少臭金天氏の陵、周公廟顔子林廟亞聖林等其他訪ふべき所が少なくない、然し孔子廟は最も壯大を極め其代表的のものであります。